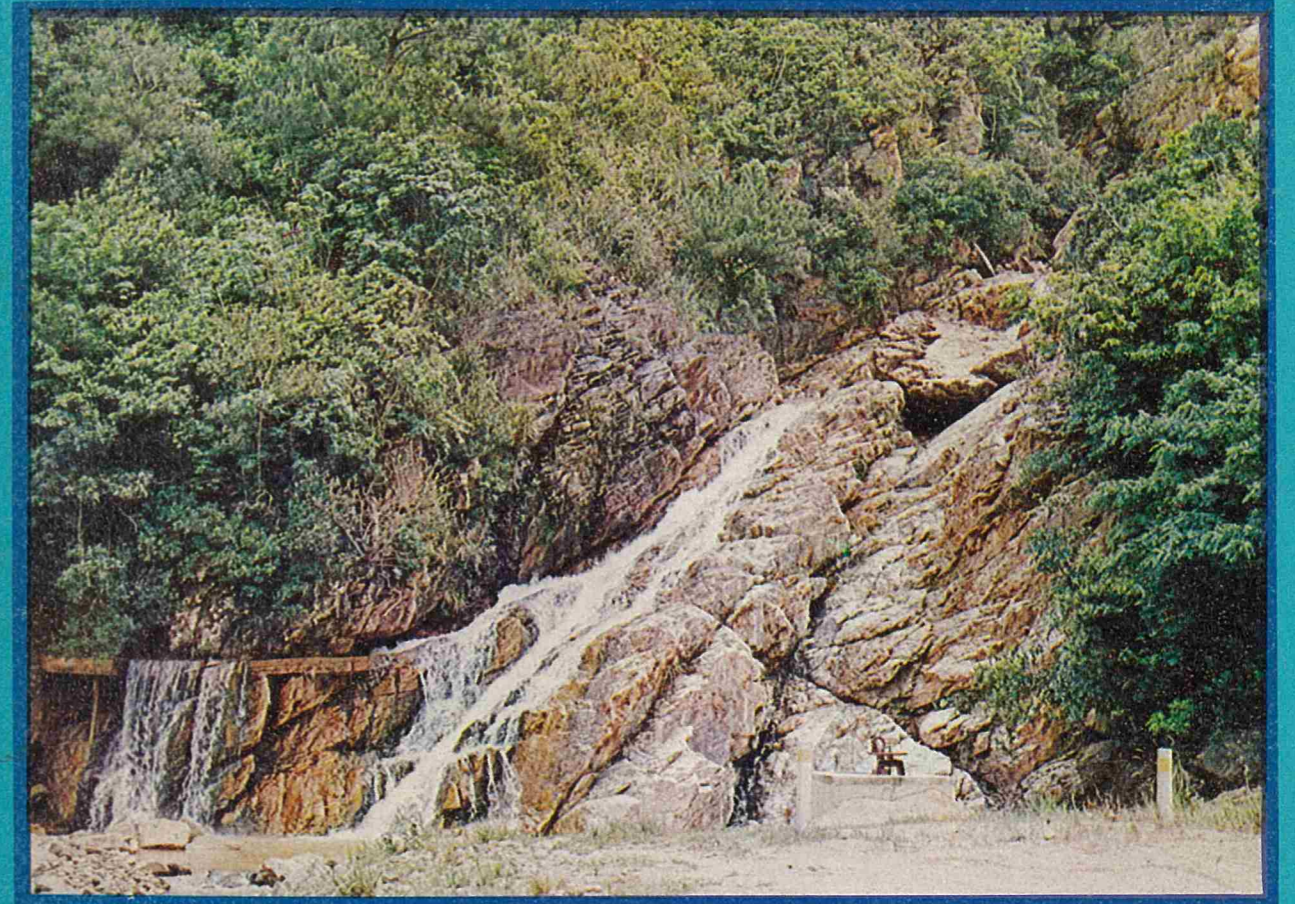


1970会計年度

# 年次報告書



(平南の滝)

## 琉球水道公社

沖縄コザ市字山里284番地  
電話(代表) 077-0111番



# 琉球水道公社 年次報告書

(自1969年7月1日 至1970年6月30日)

## 目次

ごあいさつ	2
公社の理事	3
機構と役員	4
公社の概要	5
水の需要と配水地域	6 / 7
施設の現状	8 / 9
全島統合上水道一覧	10 / 11
計画と公社の新社屋	12
対外活動	13
財務回顧	14
監査報告書	15
比較貸借対照表	16
比較損益計算書	17
財務諸表脚注	18 / 20
1970会計年度の経理	フロント・カバー (裏)
水道ニュース	バック・カバー (裏)

### 1970会計年度の経理

(単位: U. S. \$1,000)

営業	1970年度	1969年度	増減 (%)
公社の収入	2,100	1,962	7.0
水の売上額	2,048	1,732	18.2
預金利息	44	143	( 69.2)
その他の収入	2	1	100.0
過年度利益	6	86	( 93.0)
その使途	2,196	1,967	11.6
水の購入額	1,087	847	28.3
運営および維持費	431	273	57.9
減価償却	652	486	34.2
過年度費用	26	361	( 92.8)
利益剰余金純減少額	( 96)	( 5)	1,820.0
設備投資	10,107	3,370	199.9
米国政府からの建設 工事援助資金	8,852	1,600	453.3
公社利益金からの 建設資金	1,255	1,770	( 29.1)
その他	(単位: 100万ガロン)		
水の売上量			
浄水	8,914	7,487	19.1
原水	1,137	1,095	3.8
公社の職員数	130	101	28.7

注: カッコ内の数字は減少を示します

石川浄水場濾過池配管室



琉球列島米国民政府  
民政官 ロバート A. フィアリー



## ごあいさつ



琉球水道公社の年次報告書をこゝに進呈いたします。1970会計年度における当公社の特筆すべき活動は、琉球最大の福地ダム第2期建設工事の着工でありました。福地ダムは1972年春に竣工し、貯水量97億7千万ガロン、1日平均取水量3千3百万ガロンが見込まれています。この取水量は、急増する産業用水および本島中、南部の人口稠密地域の需要をみたすに必要な水量であります。

琉球水道公社は増大する沖縄の水需要に対処するため、諸水道施設の建設と水源の開発にたゆまぬ努力をつづけております。1970会計年度には次の主な施設が竣工しました。すなわち、福地ポンプ場、ハンセン・ポンプ場、天願送水ポンプ場、豊見城増圧ポンプ場および同配水タンク(50万ガロン)と付帯する配水本管の敷設等であります。

また公社は、機構を革新し、3部7課を設け、職員総数は130名となりました。社内組織の改革によって、用水供給先へよりよいサービスができるものと確信いたします。

1970会計年度は大きな前進の年でありましたが、この達成にご協力とご支援を賜りました民政官、公社理事、顧問および関係者各位に対し、衷心より感謝申し上げます。

琉球水道公社

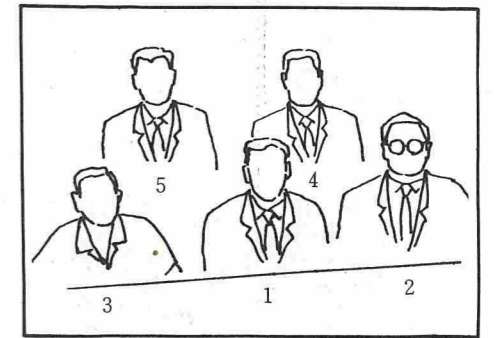
総裁

大 徳 博 貞



## 公 社 の 理 事

1. 理 事 長 ハーリー W. ロンバート  
(米国民政府公益事業局長)
2. 理 事 宮 里 栄 一  
(琉球政府建設局長)
3. 理 事 ビリー H. モーリス  
(在琉米国陸軍施設隊長)
4. 理 事 照 屋 輝 男  
(琉球開発金融公社総裁)
5. 理 事 大 浜 博 貞  
(琉球水道公社総裁)

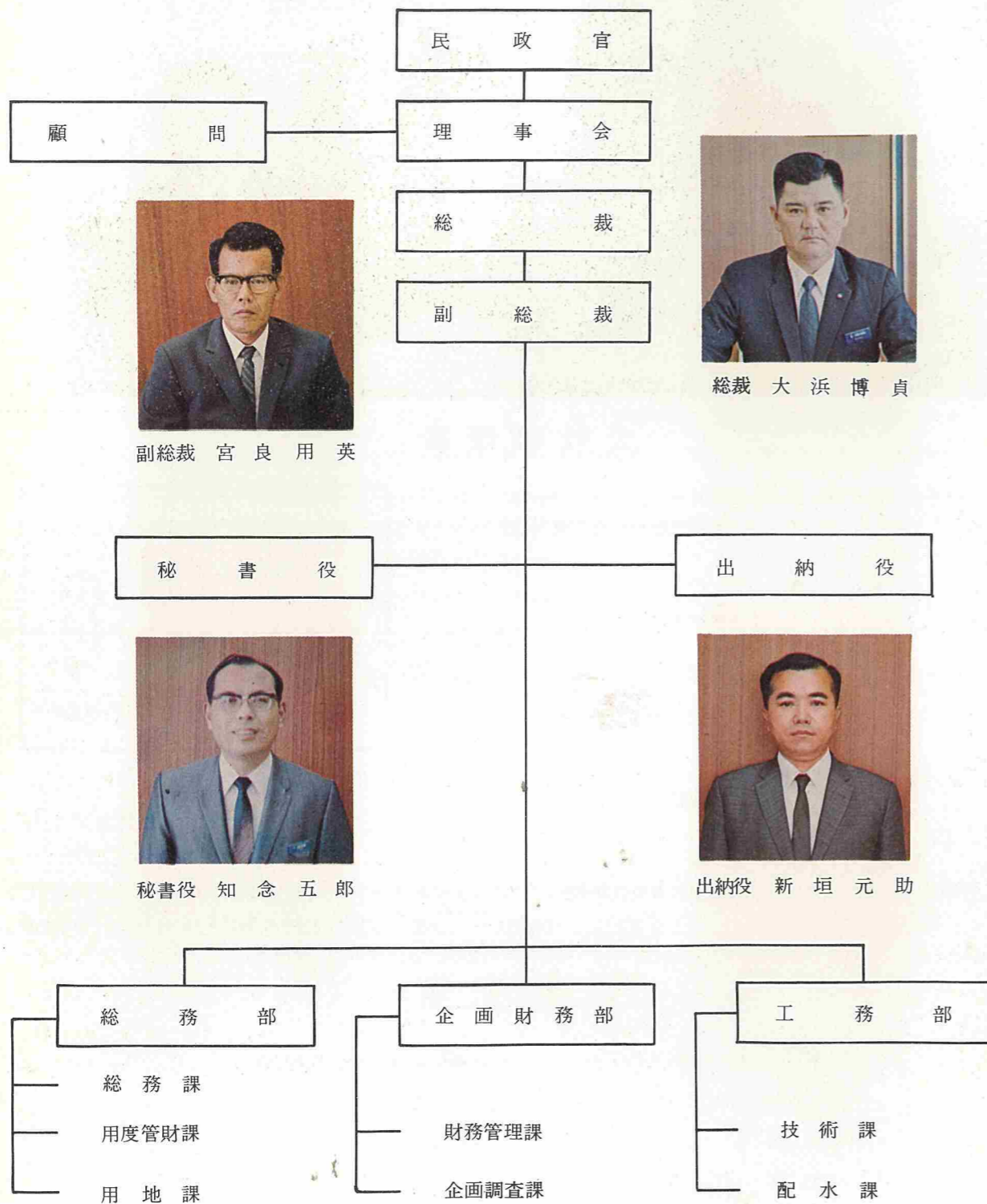


## 代 理 理 事

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| トミー L. エバーハート  | (民政府公益事業局公共施設部長) |
| アルフレッド A. デサント | (統合上水道水道部長)      |
| 安 里 一 郎        | (琉球政府建設局土木建築部長)  |
| 比 嘉 寛          | (琉球開発金融公社調査部長)   |
| 宮 良 用 英        | (琉球水道公社副総裁)      |



## 公 社 の 機 構



## 公 社 の 概 要

### 設立および目的

琉球水道公社は、1958年9月4日高等弁務官布令第8号にもとづき、琉球列島米国民政府の補助機関として設立されました。琉球住民の用水と産業開発に必要な安全で、十分な水を供給することをその目的としています。

### 管理および運営

公社の管理権は民政官によって任命された5名の理事で構成される理事会に付与されています。

日常業務の運営は130名の職員（米国人職員2名を含む）が、その任務にあたっています。

### 全島統合上水道

沖縄住民の用水供給源である全島統合上水道は、琉球列島米国民政府および琉球水道公社所有の諸施設からなりたっています。

1970会計年度における一日平均生産水量は4,460万ガロン（那覇市泊浄水場生産量を含む）でありました。この中、約半の水量が那覇市を含む19ヶ市町村および南部地区東部上水道組合に供給され、残る量が米軍によって消費されました。

在琉米国陸軍は、琉球水道公社との運営協定にもとづいて、全島統合上水道を運営、維持し、市町村およびその他の民需要をみだすのに必要な水量を公社に供給しています。

1970会計年度には全島統合上水道は、154億ガロン（浄水143億ガロン、原水11億ガロン）の水を生産し、その中100億ガロン（浄水89億ガロン、原水11億ガロン）を公社に供給しました。

在琉米国陸軍との運営協定にもとづいて、公社の水道技師、水質検査官、ポンプ場操作係、修理工、ダム監視人等63名が全島統合上水道部（在琉米国陸軍の）で上水道施設の運営に従事しています。

### 組織と職員

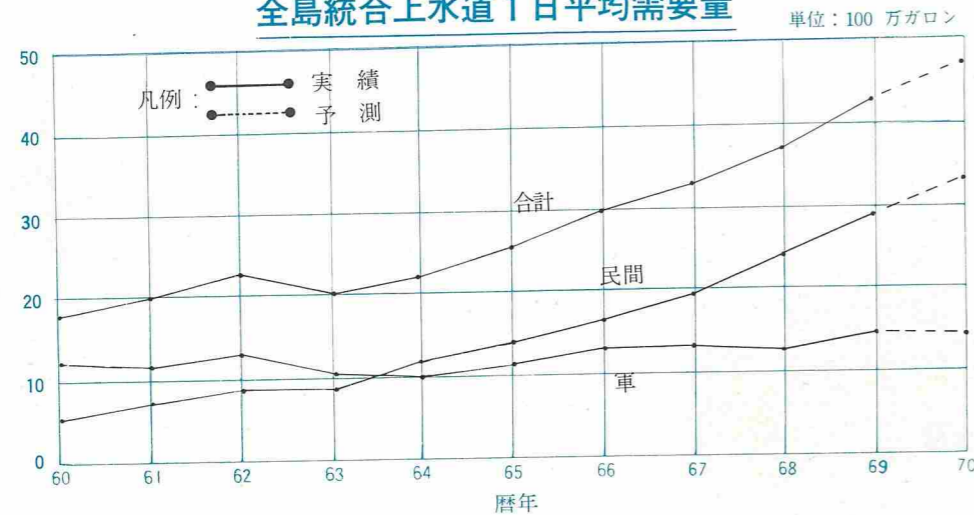
業務態勢の強化と機能部門の円滑化をはかるため、1970会計年度には社内の機構が3部7課に改革されました。施設の拡張、業務量の増加などにもとづいて、職員が増員され、1970年6月30日現在、公社の職員総数は130名となりました。公社は職員の資質の向上を目指して、管理職者を含む多数の職員を米国陸軍民間人雇用事務所、地方生産性本部、経営コンサルタント等による諸研修プログラムに参加させました。日本水道協会開催のゼミナールには4名の役職員が参加しました。公社は研修参加職員のため、費用を負担する研修方針をつづけています。



## 伸びる水の需要

沖縄の上水道の需要は上昇を続け、1970会計年度における日最高需要量は、前年度の5,100万ガロンに対し、5,500万ガロンを記録しました。下図は過去10ヶ年間の1日平均需要量の推移を示したものです。

全島統合上水道1日平均需要量

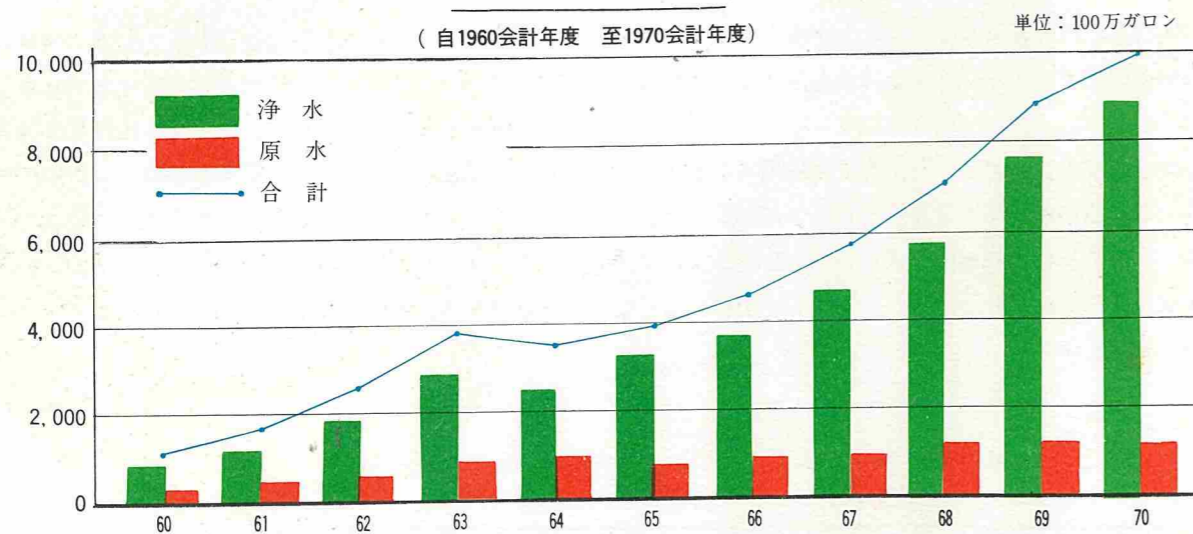


## 水の売上

1970会計年度における公社の浄水売上量は89億ガロンで、供給先は19ヶ市町村、南部地区東部上水道組合(南部4村からなる)および南部地域における23の直接給水先となっています。この売上水量は、前年度と比較して、19%の増加であります。この外、公社は主として那覇市へ11億ガロンの原水を供給しました。下図は1960会計年度から1970会計年度までの水の売上量を示し、公社の配水市町村と配水量の内訳は次頁に示してあります。

水の売上量の推移

(自1960会計年度 至1970会計年度)



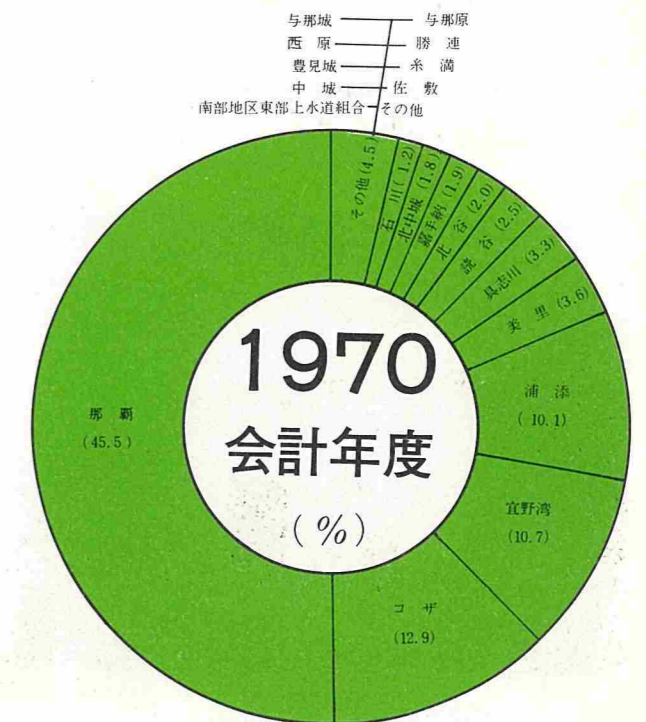
## 琉球水道公社配水市町村および配水量

単位：1,000 ガロン

浄水	1970会計年度	1969会計年度
那覇	3,467,287	2,983,727
コザ	1,296,494	1,144,967
宜野湾	1,074,496	939,179
浦添	1,010,370	811,603
美里	364,987	310,607
具志川	331,622	258,464
読谷	254,378	225,548
嘉手納	187,996	181,665
北谷	204,613	178,240
北中城	177,350	153,417
与那城	41,938	19,108
西原	30,410	15,203
石川	121,796	79,183
豊見城	31,876	9,305
中城	13,669	6,272
与那原	56,642	18,469
勝連	1,231	297
糸満	29,838	-
佐敷	2,286	-
南部地区東部上水道組合	96,224	42,440
その他	118,639	109,048
計	8,914,142	7,486,742

原水	1970会計年度	1969会計年度
那覇	1,111,138	1,068,761
宜野座	3,110	2,708
その他	23,447	23,281
計	1,137,695	1,094,750

注：南部地区東部上水道組合は南風原、東風平、大里および具志頭の各村が加入している。





## 施設の現状

琉球水道公社は、1970会計年度には、本島北部における水源開発と中、南部地域の水道施設拡張のため、390万ドルを支出しました。

沖縄北部における水源開発計画の一環として、福地川上流とキャンプ・ハンセンダムにそれぞれ取水ポンプ場が新設され、全島統合上水道が強化されました。

1970年6月30日現在、北部水源から1日600万ガロンから1,400万ガロンの原水が全島統合上水道へ導水されました。

また、送水ポンプ場、増圧ポンプ場の増改設、配水管の敷設、延長および地下水源の開発など沖縄中、南部においても諸施設が拡充されました。

### 建設工事

1970会計年度中、6つの主要建設計画が実現し、630万ドルにのぼる5つの主要建設計画の工事契約が締結されました。また、1970年6月30日現在、5つの主要施設の建設工事が進行中であります。

竣工した建設工事：

1. 福地ポンプ場 (1969年8月)
2. 豊見城配水管の敷設 (1969年8月)

3. 天願、嘉手納地域の第3次地下水源開発 (1969年8月)
4. 天願送水ポンプ場 (1969年9月)
5. 豊見城増圧ポンプ場および同50万ガロン配水タンク (1970年3月)
6. キャンプ・ハンセン ポンプ場および導水本管 (1970年5月)



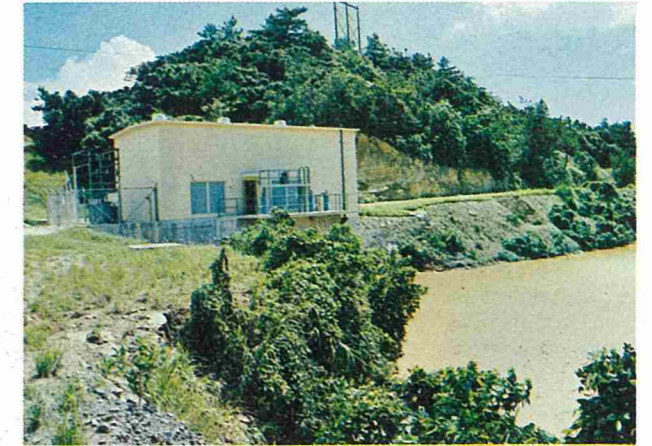
福地ポンプ場 (650万ガロン/日)



天願送水ポンプ場 (1,300万ガロン/日)



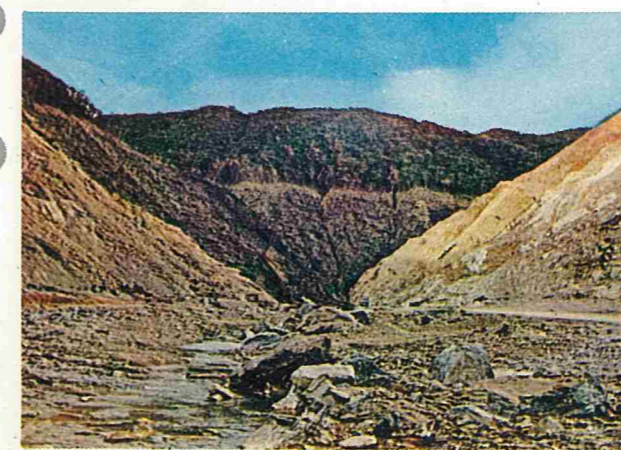
豊見城配水タンク (50万ガロン)



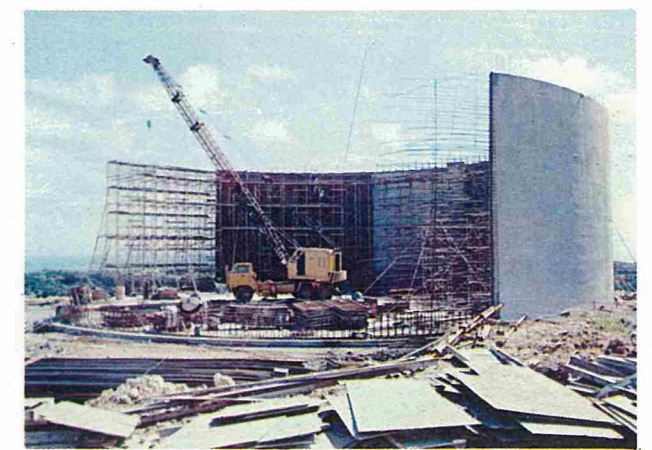
キャンプ・ハンセン ポンプ場 (300万ガロン/日)

### 建設中の工事

1. 福地ダム
  - (1) 第1期工事 (87%)
  - (2) 第2期工事 (1%)
2. 1,000万ガロン上間第2号配水タンク (27%)
3. 200万ガロン与勝配水タンク (32%)
4. 琉球水道公社新社屋 (94%)



福地ダム建設地



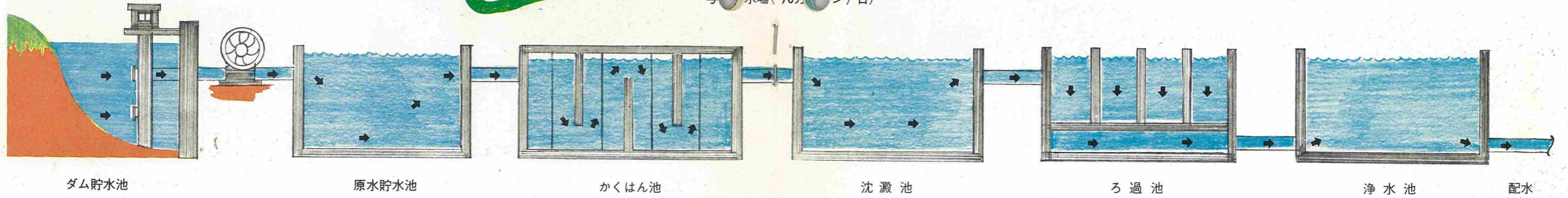
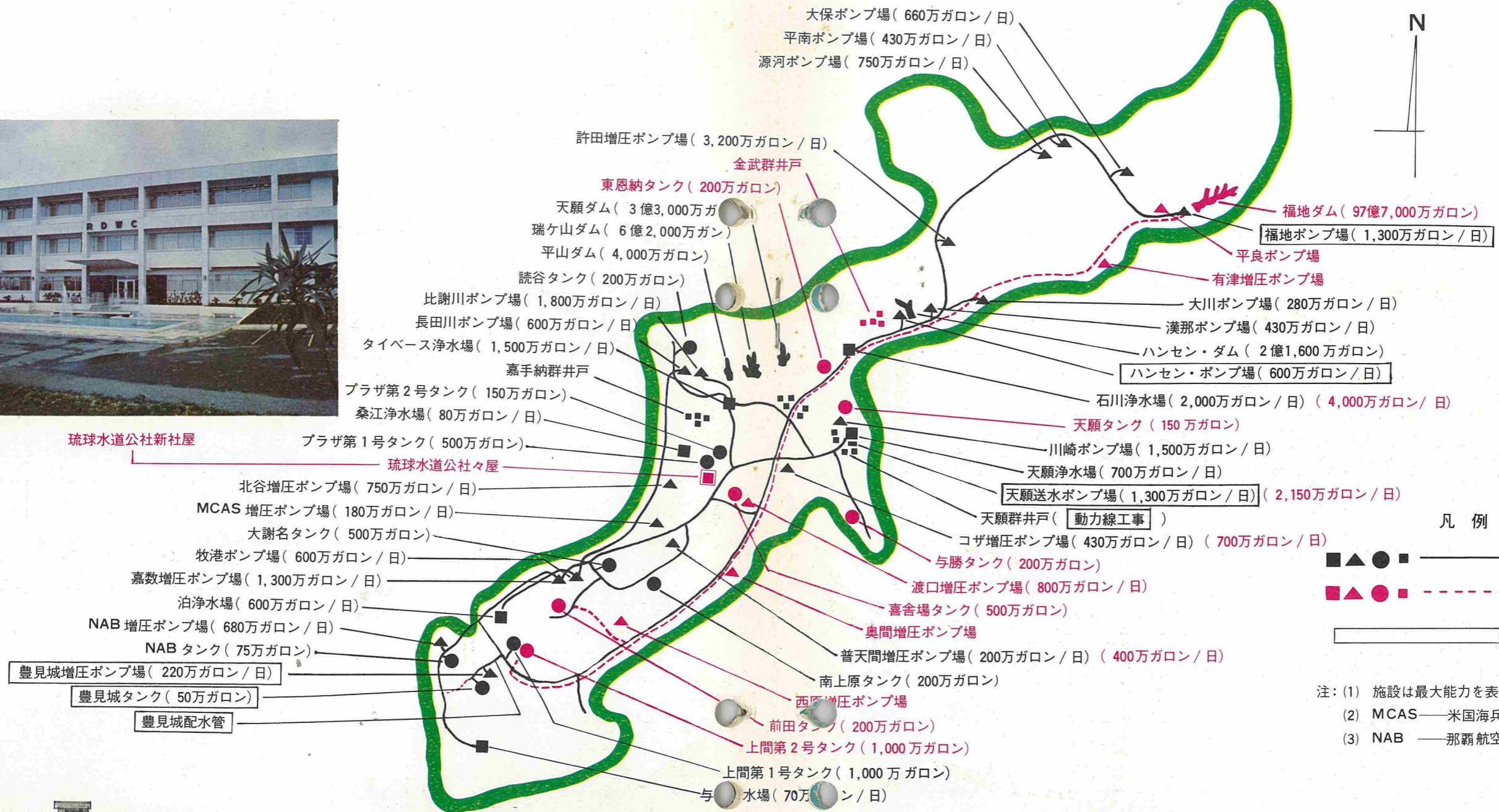
与勝配水タンク



# 全島統合上水道一覽



琉球水道公社新社屋





## 計 画

琉球水道公社は本島中、南部の人口稠密地域の激増する用水需要に対処するため、新たな諸施設の建設を計画しました。

1969年6月には、福地ダム第1期建設工事の施工契約が140万ドルで締結されました。この第1期工事の終了は、1970年10月の予定です。第2期工事は、570万ドルの施工費で1970年5月に着工され、竣工は1972年春の予定です。

1971会計年度の主な計画は下記のとおりですが、これら計画に民政府一般資金から152万ドル、公社資金から78万ドルが予算計上されています。

1. 平良ポンプ場の建設(第1期)
2. 地下水源の開発(第4期)
3. 奥間増圧ポンプ場
4. タイベース浄水池の建設
5. 機器具修理施設、倉庫の設計および建設

## 公社の新社屋



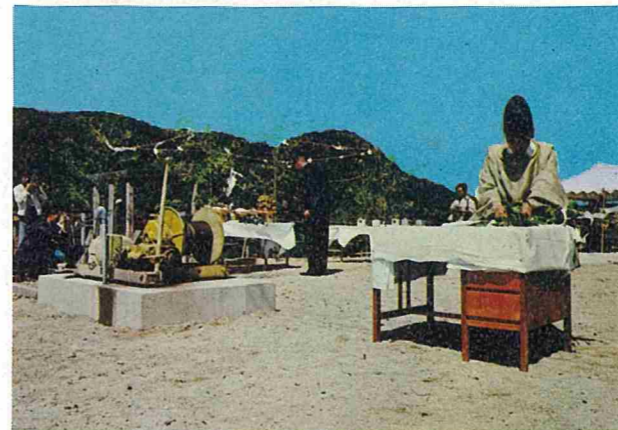
位 置： コザ市山里  
 着 工： 1969年6月  
 竣 工： 1970年7月  
 延床面積： 2,145 平方メートル

## 対 外 活 動

公社の活動状況や施設等を住民に周知してもらうため、1969年9月第1週に、琉球政府、沖縄水道協会、関係各市町村と共催で、「全琉水道週間」を催しました。

当水道週間中には、公社の諸施設(石川浄水場、天願浄水場、瑞慶山、天願両ダム、配水タンク、ポンプ場など)が一般に公開され、中、南部の20ヶ市町村から参加した1,000人余の見学者で賑わいました。

## ハイライト



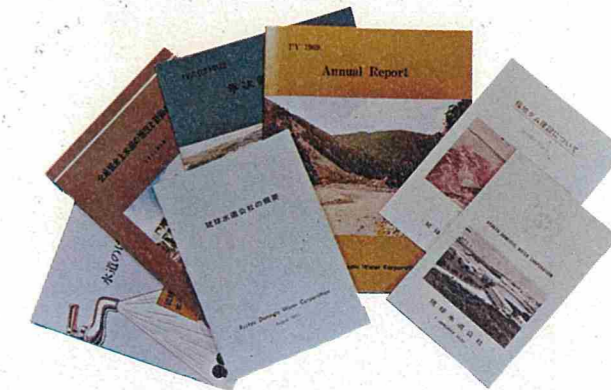
福地ダム第2期工事起工式



全島施設模型図について説明をうける見学者



石川浄水場の一般公開風景



公社の出版物



# 財務回顧

—概要—

## 利益金の減少

1970会計年度における水の売上高は前年度と比較すると、18.2%の増収にもかかわらず純利益は、預金利息の

減少と減価償却費、諸経費等の増加により損失となりました。

## 設備投資

琉球水道公社の主な設備資金源は、米国民政府一般資金、米国陸軍割当資金および公社利益金の3つとなっています。

1959会計年度から1970会計年度までの投下設備資金の内訳は、米国民政府一般資金2,110万ドル、米国陸軍割当資金650万ドル、そして琉球水道公社利益金から630万ドルとなっています。なお、民政府一般資金から、さらに780万ドルが水道公社に割当てられ、必要に応じて拠出されます。

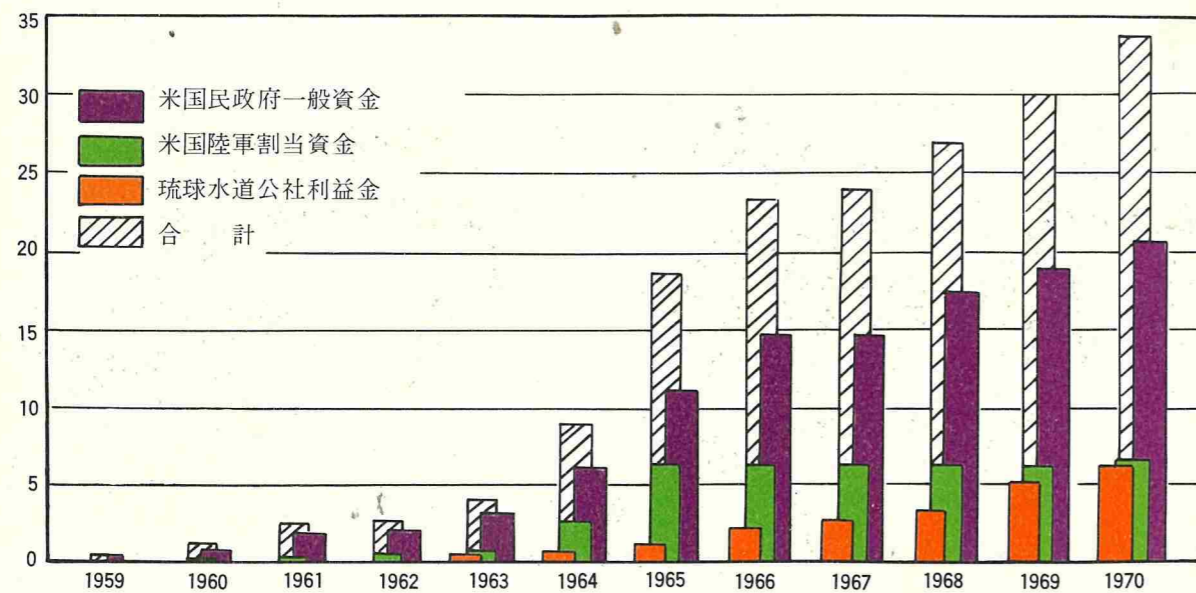
1970会計年度中に、公社は北部水源の開発および中、南部水道施設の拡張に390万ドルを費やしました。この支出金には、米国民政府一般資金から現年度分110万ドル、過年度繰越し分140万ドルおよび公社の利益金からの140万ドルなどが含まれています。

過去11ヶ年間に於ける拠出財源別設備資金は、下図のとおり累増しています。

財源別設備資金の累増

(自1959会計年度 至1970会計年度)

単位：100万ドル



# 監査報告書

琉球水道公社  
理事会殿

沖縄那覇  
1970年8月15日

私は、琉球水道公社の1970年6月30日現在の貸借対照表および同日をもって終了する事業年度の損益および剰余金計算書について監査を行なった。この監査に当って、私は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、会計記録の試査ならびにその時の状況に照して、私が必要と認めたその他の監査手続を実施した。

私の意見では、ここに添付された貸借対照表ならびに損益および剰余金計算書は、一般に公正妥当と認められた企業会計の基準に準拠し、かつ前事業年度と同一の基準を適用して作成されており、1970年6月30日現在の琉球水道公社の財政状態、および同日をもって終了する事業年度の経営成績を適正に表示しているものと認めた。

公認会計士 外間完知



琉球水道公社  
比較貸借対照表

6月30日現在

	1970	1969
資産の部		
固定資産:		
固定設備(脚注1)	\$27,441,735	\$24,924,948
控除: 減価償却引当金	(2,051,215)	(1,428,513)
建設仮勘定	5,103,342	3,532,292
固定資産合計	\$30,493,862	\$27,028,727
流動資産:		
現金(脚注2)	\$801,652	\$2,050,152
売掛金	241,832	169,283
未収利息	3,362	60,930
資材(脚注3)	148,168	126,614
前払費用	50,585	4,677
その他の資産	1,000	1,000
流動資産合計	\$1,246,599	\$2,412,656
資産合計	\$31,740,461	\$29,441,383
負債及び資本の部		
資本:		
資本金(脚注4)	\$27,553,094	\$25,440,452
利益剰余金(脚注7)	3,407,294	3,503,447
資本合計	\$30,960,388	\$28,943,899
流動負債:		
買掛金及び未払費用(脚注5)	\$685,041	\$453,933
預り保証金	1,465	860
流動負債合計	\$686,506	\$454,793
引当金:		
退職給与その他の引当金	\$93,567	\$42,691
負債資本合計	\$31,740,461	\$29,441,383

財務諸表に添付されている脚注は、この表の必須部分である。

琉球水道公社  
比較損益及剰余金計算書

6月30日終了会計年度

	1970	1969
売上(脚注6)	\$2,047,751	\$1,731,990
営業経費:		
売上原価	\$1,086,626	846,803
一般管理部門給料	217,108	113,969
事務用品費	21,892	16,478
保険料	3,525	2,767
損害費	889	583
借地料	90,777	51,844
社会保険料	5,733	2,124
雑費	11,137	2,328
管理部修繕維持費	6,842	4,378
送水管等修繕維持費	15,507	3,822
流量調査費	58,100	73,896
資産損失	-0-	1,568
減価償却費(脚注1)	651,966	486,132
営業経費合計	\$2,170,102	\$1,606,692
営業利益	(122,351)	\$125,298
営業外収益:		
受取利息	\$44,578	\$143,380
雑収入	1,758	1,051
営業外収益合計	\$46,336	\$144,431
当期純利益(純損失)	(76,015)	\$269,729
過年度損益修正(脚注7)		
流量調査構築物への振替修正	\$6,105	
加算: 購入払戻		86,498
減算: 過年度流量調査費及び異常損失		(361,372)
過年度借地料	(26,243)	
利益剰余金純増減高	(96,153)	(5,145)
期首利益剰余金	3,503,447	3,508,592
期末利益剰余金	\$3,407,294	\$3,503,447

財務諸表に添付されている脚注は、この表の必須部分である。



琉球水道公社  
財務諸表脚注

1970年6月30日

1. 固定資産と減価償却

当該年間における固定資産の増減は次の通りである。

a) 取得原価

施設	1969年7月1日 現在の残高	増	加	減	少	1970年6月30日 現在の残高
1) 原水施設	\$ 10,516,517	\$ 995,357		\$ 1,436		\$ 11,510,438
2) ポンプ施設	1,837,059	1,028,068		9,845		2,855,282
3) 浄水施設	3,542,166	-0-		-0-		3,542,166
4) 送配水施設	8,933,983	511,283		14,687		9,430,579
5) 一般施設	95,223	8,047		-0-		103,270
合計	<u>\$ 24,924,948</u>	<u>\$ 2,542,755</u>		<u>\$ 25,968</u>		<u>\$ 27,441,735</u>

b) 減価償却引当金

施設	1969年7月1日 現在の残高	増	加	減	少	1970年6月30日 現在の残高
1) 原水施設	\$ 608,141	\$ 275,492		\$ 1,436		\$ 882,197
2) ポンプ施設	181,547	149,715		13,140※		318,122
3) 浄水施設	137,602	58,071		-0-		195,673
4) 送配水施設	475,658	157,176		14,687		618,147
5) 一般施設	25,565	11,511		-0-		37,076
合計	<u>\$ 1,428,513</u>	<u>\$ 651,965</u>		<u>\$ 29,263</u>		<u>\$ 2,051,215</u>

※注： 該金額には仮設福地ポンプ場の撤去費用3,295ドルが含まれる。  
減価償却費は、総合償却法により、次に示す定額による年率で算出されている。

1) 原水施設	2.43% (41年)
2) ポンプ施設	5.95% (17年)
3) 浄水施設	1.67% (60年)
4) 送配水施設	1.75% (57年)
5) 一般施設	12.59% (8年)

2. 現金

1970年6月30日現在の現金及び未収利息は次の通りである。

	現金	未収利息
a) 小口現金	\$ 200	-0-
b) 当座預金	2,142	-0-
c) 利息付きの定期預金	799,310	\$ 3,362
合計	<u>\$ 801,652</u>	<u>\$ 3,362</u>

3. 資材及び貯蔵品

1970年6月30日現在の棚卸資産は次の通りである。

a) 先入先出法で評価された建設資材	\$ 5,990
b) 先入先出法で評価された修繕材料	142,178
合計	<u>\$ 148,168</u>

4. 資本金

当該年度中に総額2,112,642ドルが琉球列島米国民政府一般資金から繰入れられた。

5. 買掛金及び未払費用

1970年6月30日現在の未払金は次の通りである。

a) ファシリティー・エンジニアからの水の購入原価1970年6月分	\$ 108,864
b) 工事契約者に対する支払留保金	155,611
c) 未払建設工事金	346,373
d) 1970年6月分の未払給料及び未払賞与	56,366
e) 材料及び役務に対する未払分	17,827
合計	<u>\$ 685,041</u>

6. 売上

当会計年度中の売上は次の通りである。

	使用量 (1,000ガロン)	金額
a) 浄水		
市町村	8,795,503	\$ 1,929,733
小口需要者	118,639	28,492
浄水売上高	8,914,142	\$ 1,958,225
b) 原水		
那覇市その他	1,137,695	89,264
水の売上合計	<u>10,051,837</u>	<u>\$ 2,047,489</u>
c) 雑収益		262
売上合計		<u>\$ 2,047,751</u>



7. 利益剰余金

当該年度中に生じた過年度損益修正は次の通りである。

a) 加算:

(1) 流量調査構築物への振替修正 \$ 6,105

b) 減算:

(1) 過年度借地料 \$ 26,243

8. 税金

公社はすべての税金が免除されている。

